

## 1 学年・単元名

第3学年 単元名「動物のすみか」

## 2 単元学習計画

次	時数	児童の学習活動
1	1	○運動場で動物を探して、動物がいる場所について話し合う。
2	2	○動物がいた場所の様子を比べながら調べる。
	3	◎自分で選んだ動物のすみかについて調べる。
3	4	○振り返りをする。

## 3 単元の展開について (TYPE 5 第2次3時目の実践)

[自然の事物・現象]

運動場で見つけた動物たちは、食べ物のある場所や、かくれることができる場所にいた。

[問題] 場面①

カブトムシはどうかな?

カマキリはどうかな?

サメはどうかな?

[予想]

カブトムシは同じだと  
思う。

カマキリは同じだと思う。

サメはちがうと思う。

[観察・実験など]

図鑑で調べてみよう

教科書で調べてみよう

インターネットで調べてみよう

[結果・考察]

食べ物の樹液のある  
木をすみかにしていま  
した。同じ色でかくれられて、食べ  
物のバッタのいる、草むらを  
すみかにしていました。食べ物の小魚のいる海  
の中をすみかにしてい  
ました。

なかま分けしてみよう 場面②

動物たちは、草むらや木や土の中、海の中など自然の中をすみかにしている。

[結論]

動物たちは、食べ物のある場所や、かくれることができる場所をすみかにして、  
まわりの自然とかかわり合いながら生きている。

## 4 児童の姿と指導上の留意点

### (1) 場面① (個別最適に学んでいる姿)

学習活動	指導の留意点	児童の姿「ノート記述、発言、活動の姿など」
自分が知りたい動物について学習問題をたて、本やインターネットで、すみかを調べてカードにまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>調べてみたい動物を1種類選ばせ、「すみかカード」に絵、食べ物、よくいる場所をまとめさせる。</li> <li>調べ終わった児童には2枚目のカードを渡し、他の動物についても調べさせる。</li> <li>動物を選べない児童には、友達の調べている動物と同じでもよいと声をかける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A児 サメについて調べたよ。次はクマについて調べてみようかな。</li> <li>・B児 大好きなカブトムシについて調べてみよう。たぶん木の樹液をすっていたと思うけど…。</li> <li>・C児 カマキリについて友達が調べているから、ぼくも調べようかな。</li> </ul>

### (2) 場面② (協働的に学んでいる姿)

学習活動	指導の留意点	児童の姿（発言、ノート記述など）
調べた動物のすみかについて発表し、すみかごとに仲間分けをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1人の発表の後に、同じ場所をすみかにしている児童を集めて発表させ、すみか以外の共通点や相違点を比較させる。</li> <li>発表を聞いている児童にも、共通点や相違点がないか見つけさせる。</li> <li>集まった「すみかカード」をもって集合写真を撮り、考察を行う際のヒントとして提示できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A児 強い動物や大きい動物は、住んでいる場所の色と違うものもいるね。敵がいないから隠れなくてもいいからだよ。</li> <li>・B児 カブトムシは黒いし、クワガタも黒いから、木をすみかにしている動物は、体の色が黒が多いと思う。</li> <li>・C児 バッタも葉っぱにかくれているから、カマキリも隠れているのかな？</li> </ul>

## 5 実践についての考察

- 「すみかを知りたい動物」を児童自ら選ばせることで、主体的に活動に取り組むことができていた。また、「すみかカード」を多めに用意することで、たくさんの種類の動物のすみかに興味をもった児童は、授業外でも進んで調べてまとめる姿も見られた。
- 動物のすみかについて調べる際には、調べる方法（教科書、本、図鑑、インターネット）を児童自ら選択させ、個に応じた学びを行わせることができた。
- 調べたことを発表させる際、1人の発表後に「○○をすみかにしている動物たち集まれ～。」と声をかけることで、楽しみながら児童が集まり発表をしていた。前で発表することが苦手な児童も、作ったカードをみんなに見せることができ、自信をつけていた。
- △インターネットで調べさせる際に、児童が選んだ動物で、調べたいことが見つからないものがあった。事前に動物の候補を挙げたり、詳細が分かるインターネットサイトを紹介したりできるように準備をしておく必要があった。

## 6 参考文献・URL

- ・鳴川 哲也「小学校理科と個別最適な学び・共同的な学び」明治図書出版 2024年2月